

## 「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部1年 田中萌々子

## ①学習成果

【大学での学習】学業面に関して、留学前に大切だと思っていたことは、講義の内容をよく理解し、その内容に関して図書館やインターネットで文献を探してより深く学修することだ。だが、今回の台湾留学で現地の学生や同じプログラムの学生と交流したことを通して、講義が大学の学業面のすべてではないと強く感じた。大学生活で大きな時間を占める講義は学問への1つの入り口でしかなく、自分とは興味関心の異なる友人と話したり、いままで目を向けることのなかった本を読んでみたりすることも、新たな知識への道を開ききっかけになるということである。そしてまた、それらを実践することは自身をより高めてくれるという事を実感し、大学での学習の新たな側面を発見した。

【国際理解への意欲】高校生の時にアメリカに留学した際に、自分自身が日本についてあまり話せないことに衝撃を受け、日本について学ぶことを心がけるようになった。しかし、他国には目を向けてこなかった。だが、今回の留学で交流した現地の学生の中には、例えば日本の公共交通機関の最新の経営方針までを知っていて実際の効果に関心がある学生など、他国（主に日本）のことを良く知る学生もいた。彼らの姿を見て、自分自身の他国・国際関係についての知識のなさに恥ずかしさを覚えるとともに、その知識を身に着けていきたいと考えるようになった。

【海外留学への関心】もとより海外留学への関心はあり、修士課程または博士課程で海外に留学して自身の専門分野についての理解を深めようと考えていた。留学後にもその気持ちは変わっていないが、学士課程でも長期休みに別の語学留学に挑戦してみたいという気持ちも湧いた。この理由は、今回の留学において、現地の学生や現地の人々および同じプログラムに参加した学生との交流が私自身にとっても大きな刺激を与えてくれたという点から最も貴重な経験であったと感じたので、専門の研究とは別の目的で留学する機会を更に得たいと感じたからだ。

## ②海外での経験

渡航時期の気候が良く、食べ物も口に合い、街中に漢字が溢れているので交通機関の乗り方などに困ることも少なく、衝撃を受ける経験というのは少なかったと考える。だが、はじめの時期は漢字を見て意味が分かることに満足していたが、だんだんと漢字の中国語読みが気になり、中国語の語彙が増えていったことが印象的な台湾での経験である。

## ③プログラム内容

平日の午前中には必ず3時間の中国語の授業がある。私の参加したクラスでは、聞いて話すことが重要視されており、新しい文法や単語を学び、それを使ってワークシートに沿って級友と話す練習をするという形式がとられた。授業はすべて中国語で、みな理解し難い部分に関しては偶に英語が用いられた。書く練習としては100字以上もしくは200字以上作文の宿題がそれぞれ1回ずつ出され、先生が添削してくださった。始めは中国語を使用するのは授業内だけだったが、だんだんと拙いながらも話すことに抵抗がなくなり、授業外の時間でも級友と中国語で話す練習をするようになった。いまでも級友とは、どちらの母語でもない中国語を使用してチャットで会話を続けるなどしている。

平日の午後には、台湾の生活や文化、歴史について台湾大学の教授による英語での導入的な講義が4回行われたり、現地学生に授業や宿題に関してわからない事柄を質問する時間が与えられたり、有名な観光地にフィールド

ワークに行って、英語または中国語で現地のガイドの話聞く機会があった。講義を通して、「お年寄りを介護している人はどんな人か？」など、台湾生活における新たな視点を得た。また、フィールドワークでのガイドさんの話は、普段の授業で先生が話すよりも速い中国語で行われたが、知らない語彙の意味が推測出来たり、内容が大まかに理解できた時の喜びは一入であり、自身の中国語学習の成果を感じるとともに、新たなモチベーションを獲得する機会でもあった。

#### ④進路への影響

これまでは、外国語を使って少し高度な内容の会話をする事は殆どなかった。そのため、今回の留学を通して、自分の英語の単語力や文法力、もしくは言い換え力が自分自身が求めるほどにないことに気づいた。この気づきによって英語の勉強にも力を入れるようになったので、海外留学・海外進学へのモチベーションがより高まった。